

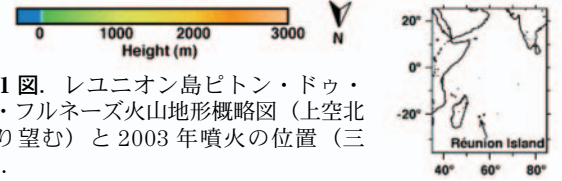
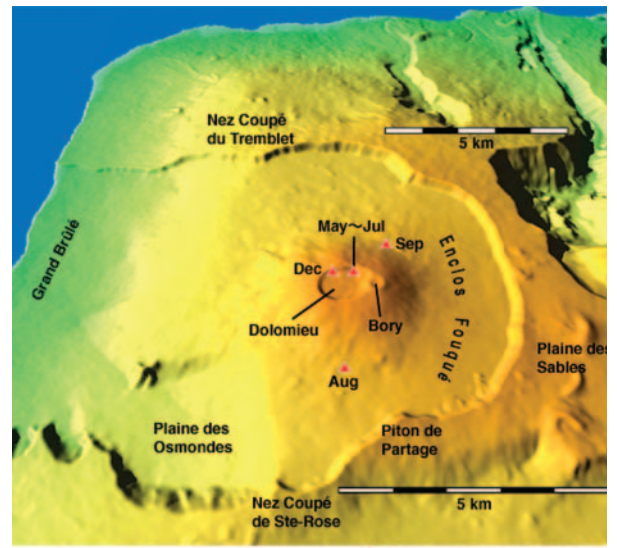
# 仏領レユニオン島ピトン・ドゥ・ラ・フルネーズ火山 2003 年噴火 2003 eruptions of Piton de la Fournaise Volcano, French Réunion Island, Indian Ocean

平松良浩 石渡 明

Yoshihiro Hiramatsu and Akira Ishiwatari

2004 年 5 月 7 日受付. 2004 年 7 月 15 日受理.  
金沢大学理学部地球学科  
Department of Earth Sciences, Faculty of Science, Kanazawa University, Kanazawa 920-1192, Japan

インド洋西部のレユニオンは世界で最も火山活動が活発な島の 1 つである。同島は西部のピトン・デ・ネージュ火山(約 200 万年前から活動を開始し, 約 3 万年前に活動停止)と東部のピトン・ドゥ・ラ・フルネーズ火山よりなる(荒牧, 1995)。最近約 300 年間の 150 回以上の噴火の多くは, 後者のエンクロ・フーケ(Enclos Fouqué)カルデラ(南北径約 9 km; 東側は崩壊して海没)内に生じた比高 400 m(山頂標高 2632 m)の楕状火山の 2 つの山頂クレーター(ドロミュー(Dolomieu)とボリ(Bory))およびその山腹から生じている(第 1 図)。2003 年も活動が活発で, 5~7 月にドロミュー・クレーター内で数回溶岩を流出した(第 2 図)。その後 8 月 22 日夜にはボリ・クレーター内と楕状火山北斜面の割れ目から噴火し(第 3 図), 標高 2150 m 地点にスパター・コーン(底径: 約 45 m, 比高: 約 15 m)が形成され(第 4 図), 8 月 27 日まで噴火が続いた。9 月 30 日には楕状火山の南斜面で噴



第 1 図. レユニオン島ピトン・ドゥ・ラ・フルネーズ火山地形概略図(上空北より望む)と 2003 年噴火の位置(三角).

火し, 14 時間続いた。そして 11 月 6 日から 1 日 10 - 20 回の地震と山頂クレーター縁辺部で累積 30 cm に達する隆起が始まり, 12 月 7 日午後ドロミュー・クレーター内の南東縁から噴火し(第 5 図), 25 日まで続いた。

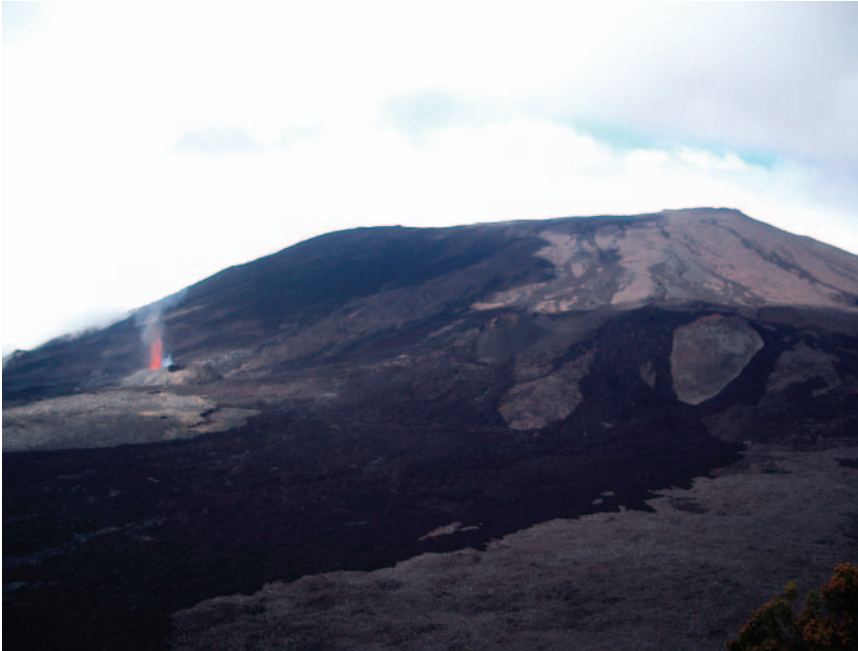
### 文 献

荒牧重雄, 1995, ピトン・デ・ラ・フルネーズ/レユニオン島. 荒牧重雄ほか編「空から見る世界の火山」, 丸善, 145-147.

第 2 図. レユニオン島ピトン・ドゥ・ラ・フルネーズ火山 2003 年 7 月の噴火. ドロミュー・クレーター内で流出するパホイホイ溶岩.







第3図. 8月の山腹噴火を火山の北側山麓から見る. 中央の山の頂上部にドロミュー・クレーターがあり, 右手にはポリ・クレーターがある. 手前は2000年噴火ないしそれ以前の溶岩.



第4図. 同上近景 (南東方向より望む). 火口後方には1998年大噴火時の噴火口であるピトン・カポー (Piton Kapor) が隣接する. 背後の山はピトン・ドゥ・パルタージュ (Piton de Partage).



第5図. 同火山2003年12月の噴火. 8月・9月の噴火はクレーター外で発生したが, 12月の噴火はドロミュー・クレーター内の南東側縁辺部で発生した.